

Planet

[企業ステートメント](#)
[クラレグループ行動規範](#)
[トップステートメント](#)
[サステナビリティ長期ビジョン・サステナビリティ中期計画](#)
[クラレグループのマテリアリティ](#)
[Planet](#)
[環境マネジメント](#)
[地球温暖化防止](#)
[環境リスクの低減](#)
[環境会計](#)
[環境データ](#)
[サステナビリティ中期計画 Planet](#)
[Product](#)
[People](#)
[ガバナンス](#)
[GRIスタンダード対照表
\(内容索引\)](#)
[クラレレポート（統合報告書）/ サステナビリティウェブサイト](#)
[ランドセルは海を越えて](#)
[イニシアティブ](#)
[環境マネジメント](#)
[地球温暖化防止](#)
[更新](#)
[環境リスクの低減](#)
[環境会計](#)
[環境データ](#)
[サステナビリティ中期計画 Planet](#)

【ご注意】会計年度変更に伴い、本レポートにおける環境関連データはグラフも含め次の通りとなっています。

- ・2013年度以前：4月-3月の12ヶ月実績
- ・2014年度：4月-12月の9ヶ月実績 + 2014年1月-3月実績（または推定値）（2013年度と重複しています）
- ・2015年度以降：1月-12月の12ヶ月実績

環境リスクの低減

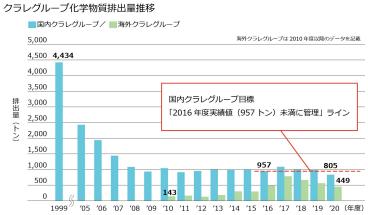
化学物質の排出管理

国内クラレグループでは化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）に従って対象となる化学物質の年間排出量を調査・把握し、国に報告しています。また、クラレグループではPRTR法の対象物質以外に日本化学工業協会（日化協）が定める化学物質についても同様に排出量を把握してクラレHP等で公表しています。この他に残留性有機汚染物質(POPs)、揮発性有機化合物(VOC)、有害大気汚染物質(HAP)、粒子状物質(PM)の化学物質について、クラレでは下表の通り対応しています。

環境データ

区分	物質名	対応
POPs	ポリ塩化ビフェニル (PCB)	PCB特措法（2027年無害化処理期限）に従って、保管・管理、報告、無害化処理中
	ダイオキシン類	事業所ごとに排出量測定（ 環境データ 参照）
	上記以外	製造・使用していない
VOC HAP		PRTR物質に含まれるため、PRTR物質として排出量を測定、報告 (マテリアルフロー で報告、事業所ごとの排出量は 環境データ 参照)
	PM	ばいじん排出量を マテリアルフロー で報告
PRTR		法対象物質および日化協の指定物質について排出量を測定、報告 (マテリアルフロー で報告、事業所ごとの排出量は 環境データ 参照)

国内クラレグループでは化学物質の排出削減のため2008年頃までに大規模な設備投資を行い、1999年に比べて約80%の排出量削減を実現しました。それ以降は、事業規模が拡大しても事業所外への環境負荷を増加させない、という考え方で、日化協PRTR物質※排出量の上限を定め管理を行っています。この目標を達成するため、設備の新增設に際しては、化学物質の排出量を増加させないための対策を投資案件に含めて検討・実施しています。2020年度の排出量は新型コロナウイルスの影響による減産もあり、国内クラレグループ全体で805トン（大気742トン、水域63トン）となり、目標の957トン未満を達成しました。今後も引き続き、事業所外への排出を増加させないように対策を進めていきます。



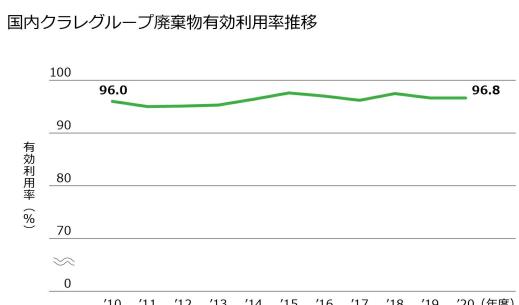
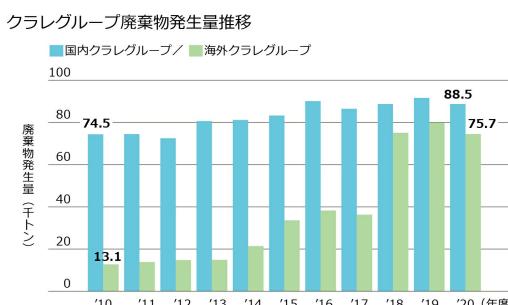
海外クラレグループについては、各生産拠点が立地する国・地域の化学物質排出規制の遵守と定量管理を継続することを年度方針としています。2017年度までは事業編入、および、製造拠点の新增設等により排出量は増加傾向にありましたが、排ガス処理装置の増設、運転管理の改善等の対策を実施し、2018年からは減少しています。2020年度の排出量は前年とほぼ同じ449トンとなりました。

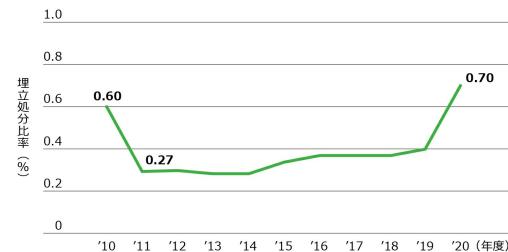
※PRTR法対象物質および日化協指定物質

廃棄物の有効利用

国内クラレグループの廃棄物発生量は、2019年度対比で3.3千トン減少し88.5千トンとなりました。これは各事業所、関係会社で製品収率の向上、廃棄物の分別、回収による再原料化など、廃棄物発生量を減らすための地道な対策を続けたことに加え、新型コロナウィルス感染症の影響による減産によるものです。2020年度の廃棄物削減対策量は目標である900トン（2016年度発生量の1%相当分）以上となる2,486トンを達成しました。発生した廃棄物のほとんどは、再資源化やエネルギー回収など有効利用に努めた結果、有効利用率は96.8%となりました。一方で、2020年度の埋立処分量は616トン（埋立処分比率は0.7%）と前年度対比で増加し、目標の251トン（2016年度実績値）未満を達成することが出来ませんでした。これは一部の特別管理産業廃棄物で有効利用を行う処理委託先がなくなったこと、廃棄物の輸出規制により海外での廃プラスチックのリサイクル利用が困難になったこと、等によるものです。今後も廃棄物の発生削減対策を進めるとともに、有効利用できる委託先の探索を行い、埋立処分量の抑制に努めます。

また、海外クラレグループの廃棄物発生量は、2014年にビニルアセテート事業、2018年にカルゴンカーボン社を買収したことにより増加しています。2020年度は新型コロナウイルス影響による減産に伴い、2019年度対比で6.0千トン減少し75.7千トンとなりました。各生産拠点では自国の法的要事項を遵守するとともに、収率向上、原単位改善活動を通して廃棄物の発生抑制に努めており、今後も運転条件の最適化や再原料化などの削減対策に引き続き取り組んでいきます。



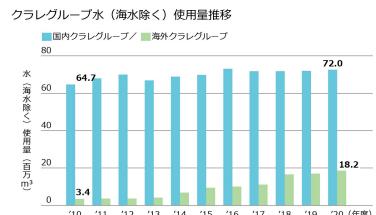


水資源の有効利用

クラレグループでは海外関係会社も含め、現時点では水資源が乏しく事業活動が水源に大きな影響を及ぼすような地域での生産活動は行っていませんが、水資源は世界的に需給が逼迫しており、今後も引き続き大切な資源であると認識し事業活動を進めています。

国内クラレグループの2020年度の取水量（海水除く）は2019年度とほぼ同じ72.0百万m³でした。国内の各事業所は比較的水資源に恵まれた立地条件にはあるものの、地球温暖化に伴う気候変動の影響による渇水リスクなど長期的な水供給の見通しを考慮しながら事業活動を進めていく必要があると考えており、温排水の熱回収や冷却水のボイラー用水への再利用等の“水のリユース”を継続して行っています。今後も引き続き節水と水資源の有効利用に努めながら使用量のトレンドを追跡していきます。

海外クラレグループの水使用量は2014年度以降ビニルアセテート事業、カルゴンカーボン社などM&Aによる事業編入等により増加しています。2020年度の水使用量は前年度とほぼ同じですが、新型コロナウイルスの影響による減産により生産量は減少したため、水（海水除く）原単位指数は前年度比▲4.6%となり、目標を下回りました。



生物多様性の保全

クラレグループでは地球温暖化対策、化学物質の排出管理、廃棄物の有効利用、水資源の有効利用を継続して行なうことが生物多様性の保全につながると考えています。また「生物多様性の保全に係る活動方針」を制定し、生物多様性保全に貢献する活動、および、技術開発・製品販売を進めています。例として、自治体他と連携した森林保全活動や清掃活動、絶滅危惧種の保護、などに取り組んでいます（環境保全活動例を参照）。また、生物多様性保全に貢献するクラレの製品として、バラスト水※管理システム<マイクロフェード>があります。2012年に日本国政府から型式承認を取得して以降、2020年には新型装置<マイクロフェードII>のIMO（国際海事機関）型式承認、USCG（米国沿岸警備隊）型式承認を順次取得し、アップグレード対応を進めています。2017年に「船舶バラスト水規制管理条約」が発効し、外航船舶に対してバラスト水管理装置の順次搭載が義務化されており、当社の<マイクロフェード>が、今後も生物多様性保全に貢献する製品として期待されています。

※船舶が積載物を降ろした後のバランスを保つための重しとしてバラストタンクに積み込む海水。採取した国とは異なる国で排出された場合、排出した海水に含まれる水中生物が、本来の生息地と異なる場所で繁殖することによる生態系への影響が国際的な問題となっています。

環境保全活動例

倉敷事業所	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内に「小鳥の森」と称するエリアを確保し、野鳥が住める環境を維持。 玉島の溜川公園清掃活動。（溜川公園には絶滅危惧種のダルマガエルが生息している。） 瀬戸内海環境保全特別措置法を順守し、適切な排水管理を実施。
岡山事業所	<ul style="list-style-type: none"> 岡山県主催の児島湾清掃活動 岡山理科大付属高校のクラレ水源地における魚道テストへの協力。（旭川の絶滅危惧種二ホンウナギの資源保護を目的とする。）
西条事業所	<ul style="list-style-type: none"> 愛媛県環境保全協会、西条市地下水保全協会に参画
新潟事業所	<ul style="list-style-type: none"> 新潟県が推進する「企業の森づくり」に参加。 胎内市福祉協議会が主催する清掃活動に参加。
労働組合との共催	<ul style="list-style-type: none"> 富士山植樹活動
クラレアメリカ	<ul style="list-style-type: none"> NPOテキサス保全基金Texas Conservation Fund (TCF)を支援し、地元水路の清掃に参加。
エバールヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"> 「Operation Clean Sweep」ボランティアプログラムに参加。（プラスチックペレットの水系環境への流出による海洋ごみを防ぐために運営されている）

企業情報

会社概要
ごあいさつ
企業ステートメント
役員
組織図
沿革
主な受賞歴
主要グループ拠点
会社案内動画
テレビ番組動画
広告ギャラリー

製品情報

事業から探す
製品名から探す
キーワードから探す
製品のはてな

研究開発

基本方針
技術と製品
組織・体制
歴史
トピックス

サステナビリティ

企業ステートメント
クラレグループ行動規範
クラレグループ人権方針
トップステートメント
サステナビリティ長期ビジョン・サステナビリティ中期計画
クラレグループのマテリアリティ
Planet
Product
People
ガバナンス
GRIスタンダード対照表（内容索引）
クラレレポート（統合報告書）/サステナビリティウェブサイト
ランドセルは海を越えて
イニシアティブ

投資家情報

経営方針
IRニュース
クラレって?
業績・財務情報
IRライブリー
株式情報
IRカレンダー
よくあるご質問